

異工全階以忘年會開對の原章を悉く百余名の賛助者及び大工  
友の支援の下に組合員が忘年會を開對したの趣を味用せし  
て歡んず。

財を題としも畫策を盡し歳末闘争と謀り付けた組合の熱心を  
燃發ししは以て獲心を奪つて日新株式會社を誅伐したの大工  
隊の組合員は日新株式會社古風工場内其のくくハハと味十一  
日本労働組合全團協議會中階級職業工労働者聯合会臨時大  
日本労働組合全團協議會中階級職業工労働者聯合会

一 職選團本

一 藤澤 三郎

一 藤澤 三郎

一 藤澤 三郎

一 藤澤 三郎

一 藤澤 三郎

一 藤澤 三郎

一 藤澤 三郎

法人協調會名古屋出張所

場側に於いては「かゝる大勢の忘年會は無意味でもあり且時節柄  
中止せよ」となして許可せず十二月七日代表者九名、八日にも代  
表者九名十日に更に七名の代表者を擧げて忘年會開催の許可を得  
んと工場側に嘆願交渉をなしたが遂に容れられなかつた。  
工場側に於いてはこの忘年會開催交渉の執抑なるに鑑み種々調査  
を進めた結果次の三名を職務に不忠實と言ふ名目の下に十五日裁  
首するに至つた。

千野 武士 鹽澤 隆爾 植松 憲治

概首された三名は直に評議會の應援を求め十七日には山崎常吉氏  
等二名は工場に至つて復職要求をなさんとしたが工場側は面會を  
拒否して會見せずかくて南區道徳日清紡會社宅に爭議團を結成す  
るに至つた。

年末に際し徒に勞資の闘争を爲すは兩者の爲にあらざとして大澤  
協調會名古屋出張所長勞資會見して年内に解決をなすが得策なり  
として工場側に説くことがあつたが工場側は頑強にして「三人の  
職正には會ふが労働組合員とは會見せず」となして其の勸説を斷